



APCNP2025

THE ASIAN AND PACIFIC CONGRESS FOR NURSE PRACTITIONERS CONFERENCE

参加報告

日本 NP 学会
学術連携推進委員会

2025年11月1日～2日、台湾・Taipei International Convention Centerにて APCNP2025 が開催されました。本学会は2023年に続く2回目の開催で、アジア・太平洋地域における高度実践看護師が一堂に会する国際学会です。

“**L**everaging Generative AI in Advanced Practice Nursing to Optimize Health and Well-being”をテーマとし、医療、とりわけ高度実践看護分野における生成AIの進化と将来展望について活発な議論が交わされました。

日本NP学会からは理事長・副理事長をはじめとする役員が公式に参加したほか、一般演題1題、e-Poster14題の発表がありました。また、日本を含む17ヶ国から約700名の参加者が集まり、国際的な交流が深まりました。

さらに、11月3日には Hospital Visit が実施され、NPが活躍する医療現場を視察する機会も設けられました。その内容についても、併せてご紹介します。

APCNP2025 の概要

THE ASIAN AND PACIFIC CONGRESS FOR
NURSE PRACTITIONERS CONFERENCE

NOV.1-2, 2025
TAIPEI, TAIWAN

Leveraging Generative AI in
Advance Practice nursing to
Optimize Health and Well-being

APCNP (Asia Pacific Conference for Nurse Practitioners) は、アジア太平洋地域におけるナースプラクティショナー (NP) および高度実践看護師 (APN) が、経験を共有し互いの連携を深める目的で創設された国際的な学術プラットフォームです。

2023年に台湾・タイ・日本の3ヶ国の団体で締結した覚書 (MOU) に基づき連携が進められ、今回、韓国・シンガポール・マレーシア・インドが新たに加わり合計7か国へと協力体制が拡大し今後4年間有効となるMOUが締結されました。こうした取り組みにより、NPの国際的なネットワークの強化が図られています。

一般演題では、口頭発表12演題、ポスター発表613演題が発表されたほか、大会のテーマに沿って、医療におけるAI活用の可能性と実践的応用に焦点が当てられ、医療業界のみならず、Foxconn、NVIDIA、

UBITUSといった医療ITのイノベーションを推進する企業からも、業務支援ロボットや生成AIの活用がもたらす近未来の患者サービスについて講演が行われました。また日本NP学会からは本田副理事長も登壇され、アジア太平洋地域の高度実践看護分野における日本のプレゼンスを示しつつ、今後の発展に向けた多国間での協働の必要性が強調されました。

写真右：

Dr. Heng-Hsin Tung
President,
Taiwan Association
of Nurse Practitioner



写真左：

本会を代表して参加した理事ら (左から) 忠雅之総務理事 / 福永ヒトミ理事長 / 森一直副理事長 / 本田和也副理事長 / 廣末美幸理事 (学術連携推進委員会委員長) / 長谷部亮理事 (学術連携推進委員)

写真右：

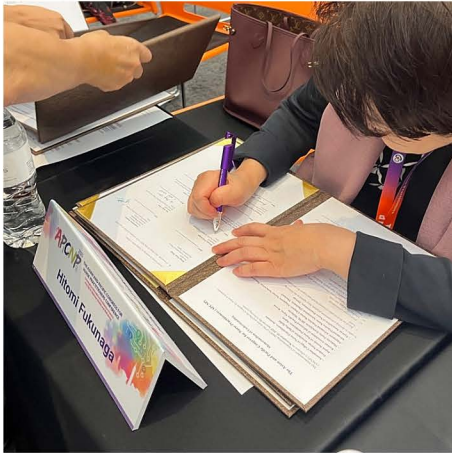
(最前列左から) Dr. Shioh-Luan Tsay, Vice President, Taiwan Association of Nurse Practitioners (台湾) / Dr. Todd F. Ambrosia, Honorary Life Member of APCNP (アメリカ) / 福永ヒトミ理事長 (本会) / 本田和也副理事長 (本会)



【APCNP Alliance Signing Ceremony (MOU)】

MOU 調印式

—A New Chapter in Collaboration—



写真：
福永ヒトミ理事長による MOU 署名の瞬間

APCNP2025 の初日には、アジア太平洋地域における NP/APN の協働を推進するための、MOU (Memorandum of Understanding: 協力覚書) 調印式が開催されました。今回正式に署名した国は、日本・マレーシア・シンガポール・タイ・インド・韓国・台湾の7カ国でした。

この調印により、アジア太平洋地域における NP/APN の教育・臨床実践・研究推進において、「国際的協働の枠組み」が明確に構築されたことが示されました。

今回の MOU は、「相互の利益を尊重しながら、各国の自立した制度と文化を尊重した協働を行う」ことを基本理念として掲げています。連携の合意内容は、専門的協働の促進・メンバーの相互訪問や交流・APCNP 会議の開催協力・質の高い医療の推進と普及・集団の健康アウトカム最適化・

エビデンスを活かした実践推進・医療政策への影響力の強化・アジアでの NP/APN の認知向上の8項目であり、2029 年まで継続されます。これらは単なる国際連携ではなく、アジア全体で“患者と地域の健康に寄与する高度実践看護”を進めるための明確な行動指針となっています。

APCNP アジア8ヶ国 連携の合意内容

1. 専門的協働の促進
2. メンバーの相互訪問や交流
3. APCNP 会議の開催協力
4. 質の高い医療の推進と普及
5. 集団の健康アウトカム最適化
6. エビデンスを活かした実践推進
7. 医療政策への影響力の強化
8. アジアでの NP/APN の認知向上

本会は 2023 年に初めて APCNP との MOU を締結しており、今回は 2 回目の締結となります。前回の MOU に基づく優遇措置として、今回も APCNP 会員として会員価格で参加することができました。

調印式は、本会の福永理事長により調印が行われました。その後、各国・各団体の代表者が登壇し、各団体のロゴマークが映し出されたマジックボールを囲んで記念撮影が行われました。特に印象的だったのは、制度や役割が異なる国同士が「競争ではなく協働」の姿勢を明確に示していた点であり、“アジアの中で看護の未来を共に創る”という方向性が共有されたことです。

今回の MOU 調印は、アジア太平洋地域における NP/APN の国際ネットワークが新たな段階へと歩み出した、極めて重要な時間となりました。



写真：(左から) マレーシア、シンガポール、タイ、日本、台湾、インド、韓国が MOU に調印

【本会代表登壇者のセッション概要】

Panel Discussion | APN Development of AI and Technology

本会の本田副理事長が日本の代表としてパネルディスカッションと教育講演 (Keynote speech) の2つのセッションに登壇されました。いずれも AI というキーワードを軸に、日本における高度実践看護 (NP/APN) の現状と展望を発信する貴重な機会となりました。

2つのセッションへの登壇の機会を得たのは、日本のみでした。

Panel Discussion の様子

大会初日の午前中に、台湾の Heng-Hsing Tung 大会長のファシリテーションのもと、韓国・インド・マレーシア・日本の4か国の団体の代表により実施されました。

テーマは“APN Development of AI and Technology – Perspective from JAPAN”であり、アジア太平洋地域における高度実践看護 (NP/APN) に関連する AI・テクノロジーの活用に関する議論が展開されました。討議の中で、本会副理事長からは、日本の医療現場における AI 導入は進みつつあるものの、NPとしての AI 実装はまだ十分に普及していない現状が報告されました。その背景として、制度的整備の段階性、教育体系、現場受容性などの課題が共有されました。

このセッションは、各国の制度差を超えて課題を共有し、今後の国際協働への展望を示す有意義な場となりました。



写真上：
Panel Discussion に登壇中の
本田和也副理事長

写真中：
(左から) インド、韓国、マレーシア、日本、台湾
登壇各国の APN を取り巻く AI の現状が共有された

写真下：
ディスカッション中の会場の様子



【本会代表登壇者のセッション概要】

Keynote | Exploring the Link Between Advanced Practice Nursing and Artificial Intelligence

Keynote Speech

大会2日目のオープニングセッションとして行われたKeynote では、本田和也副理事長により“Exploring the Link Between Advanced Practice Nursing and AI”をテーマに、40 分間の英語講演がなされました。

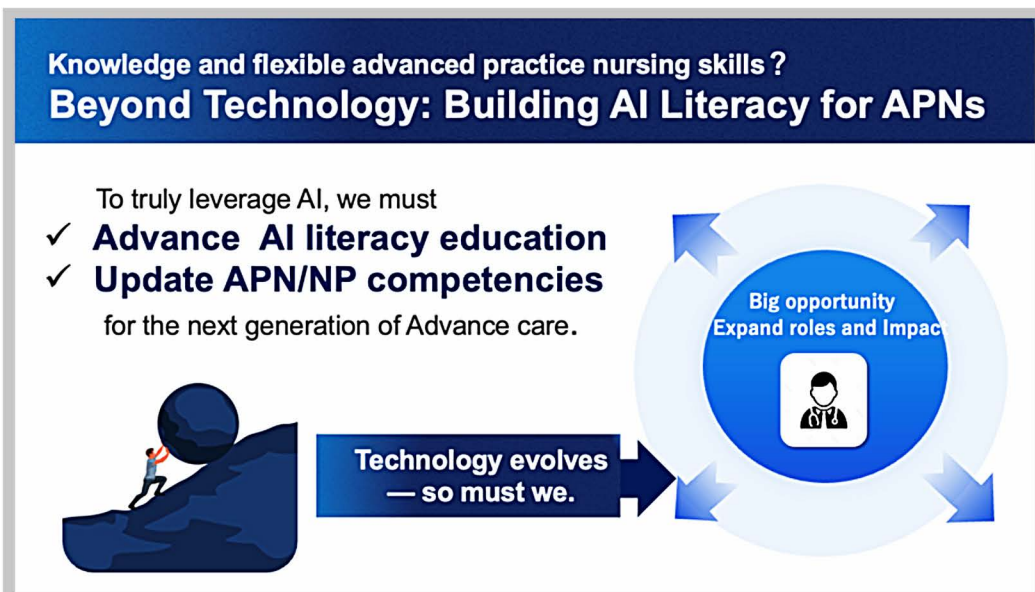
講演前半では、副理事長自身が歩んできた臨床経験を基盤に、急性期医療・へき地医療・地域医療における診療看護師（NP）実践の現状が紹介され、聴衆に強い印象を与えました。続く中盤では、日本が直面する医療構造の課題として、超高齢化・医療従事者不足・医療の偏在などが視覚的に示され、AI が果たし得る役割が議論されました。特に、AI は NP を代替する存在ではなく、臨床判断・倫理判断・地域連携を増幅する“force multiplier”であるという視点が提示され、聴衆の関心を惹きつけました。後半では、AI を現場に導入する際には技術そのものだけでなく、教育・倫理・臨床判断力・批判的思考といった“人材基盤”が不可欠であることが強調されました。この点は、台湾・タイ・シンガポールの代表者の深い共感を呼び、具体的な議論へとつながりました。最終メッセージとして、副理事長は、「AI × APN × 地域医療 × 相互理解（Plurality）」を結節点とした、アジア太平洋地域の“知のエコシステム”構築を提言し、聴衆から温かい拍手が送られました。



これは単なる国際交流ではなく、“課題解決型の国際協働の萌芽”として位置づけられるもので、今回の登壇が大きな意味を持ったことが示されました。

本会としては、今回の登壇により、日本における NP の国際プレゼンスの向上、NP の専門性と先進技術の融合可能性の提示、国境を越えた教育・研究・臨床モデル構築の契機、AI 時代における NP/APN の未来像の明確化といった多くの成果が確認できました。

今後は、これらの知見を日本の診療看護師（NP）教育・研究・実践に還元しながら、アジア太平洋地域の協働ネットワークの発展に寄与してまいります。



左図：
講演スライドより
AI 時代において APN に求められる
AI リテラシーの構築を提言している

APCNP2025 アフターノート

Taiwan NP Night - Welcome Banquet

APCNP2025 初日の夜には、“Taiwan NP Night – Welcome Banquet” が盛大に開催されました。円卓で本場の台湾料理を囲みながら、各国の NP/APN が自国の実践状況や課題、制度の違いについて語り合い、立場や文化を超えた意見交換が行われました。日頃の取り組みを共有する中で、国際的な視点から我々の活動を見つめ直す機会ともなり、特に“アジアの中の日本”として、今後どのような役割を果たしていくべきかを意識する、貴重な場になりました。国境を越えた交流が一層深まり、翌日からの学術セッションへの期待が一段と高まる夜となりました。



写真左：Banquet 開始前の円卓

写真中：韓国高度実践看護協会会長らと森副理事長による対話の様子

写真右：マレーシア看護協会国際イスラム大学マレーシア支部長らとの交流

Hospital Visit レポート—Cheng Hsin General Hospital に見る台湾 NP の今

Hospital Visit は APCNP の翌日 11 月 3 日に実施され、各国の NP および関係者は、Cheng Hsin General Hospital（午前）または Taipei Municipal Gan-Dau Hospital（午後）のいずれかのプログラムに参加しました。

Cheng Hsin General Hospital は台北市北投区に位置する 1,035 床の私立総合病院で、1967 年に小児麻痺（ポリオ）患者のためのリハビリテーション病院として開院し、現在は

心臓外科・循環器内科領域を中心に高度先端医療を提供しています。

プログラムでは、病院紹介、NP 教育担当医師から病院内での NP 教育体制や活動内容に関する講義に続き、NP による院内案内が行われました。

台湾では 1984 年に院内認定 NP、1995 年に院内認定 PA が導入され、2000 年の法改正により NP 制度が整備され、2006 年に第 1 回台湾 NP 国家試験が実施されています。現在の

台湾 NP は国家資格として、医師の監督下で侵襲度の低い医行為を担う法的位置付けが明確化されており、Cheng Hsin General Hospital でも 100 名を超える NP が、循環器・呼吸器・精神科などの領域で活躍しています。今回の病院見学を通じ、台湾における医療・看護の実情と NP の役割を理解するとともに、今後 NP 同士の国際的な交流をさらに深めていく必要性を感じました。



写真左：Cheng Hsin General Hospital 外観



写真中：感染症隔離個室（NP は毎日の回診を行い診療に貢献している）



写真右：多人数用高気圧酸素療法チャンパー（毎日の治療中のモニタリングを NP が担当）